

6-3 中国東部・近畿北部・北陸地域における地震活動 (1989年1月～6月)

Seismicity in the Eastern Chugoku, Northern Kinki and Hokuriku Districts,
Southwest Japan (January – June, 1989)

京都大学防災研究所 鳥取微小地震観測所

北陸微小地震観測所

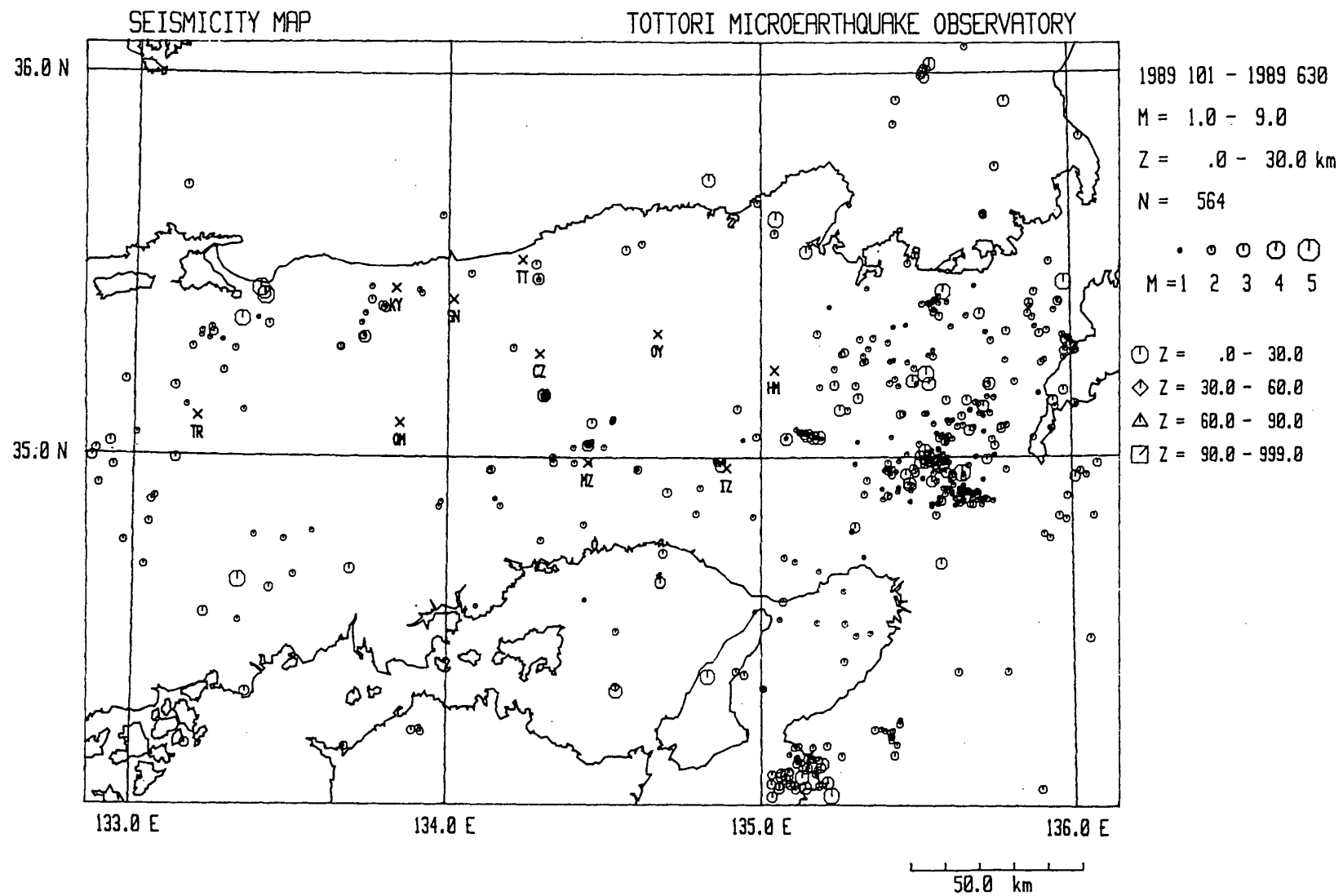
京都大学理学部 地震予知観測地域センター

Tottori Microearthquake Observatory and Hokuriku
Microearthquake Observatory, Disaster Prevention Research Institute
Regional Center for Earthquake Prediction, Faculty of Science
Kyoto University

中国地方東部から北陸地方にかけて全域でこの期間も地震活動は静穏であった。しかし、南海トラフに関連したやや深い大粒の地震が2個発生した。

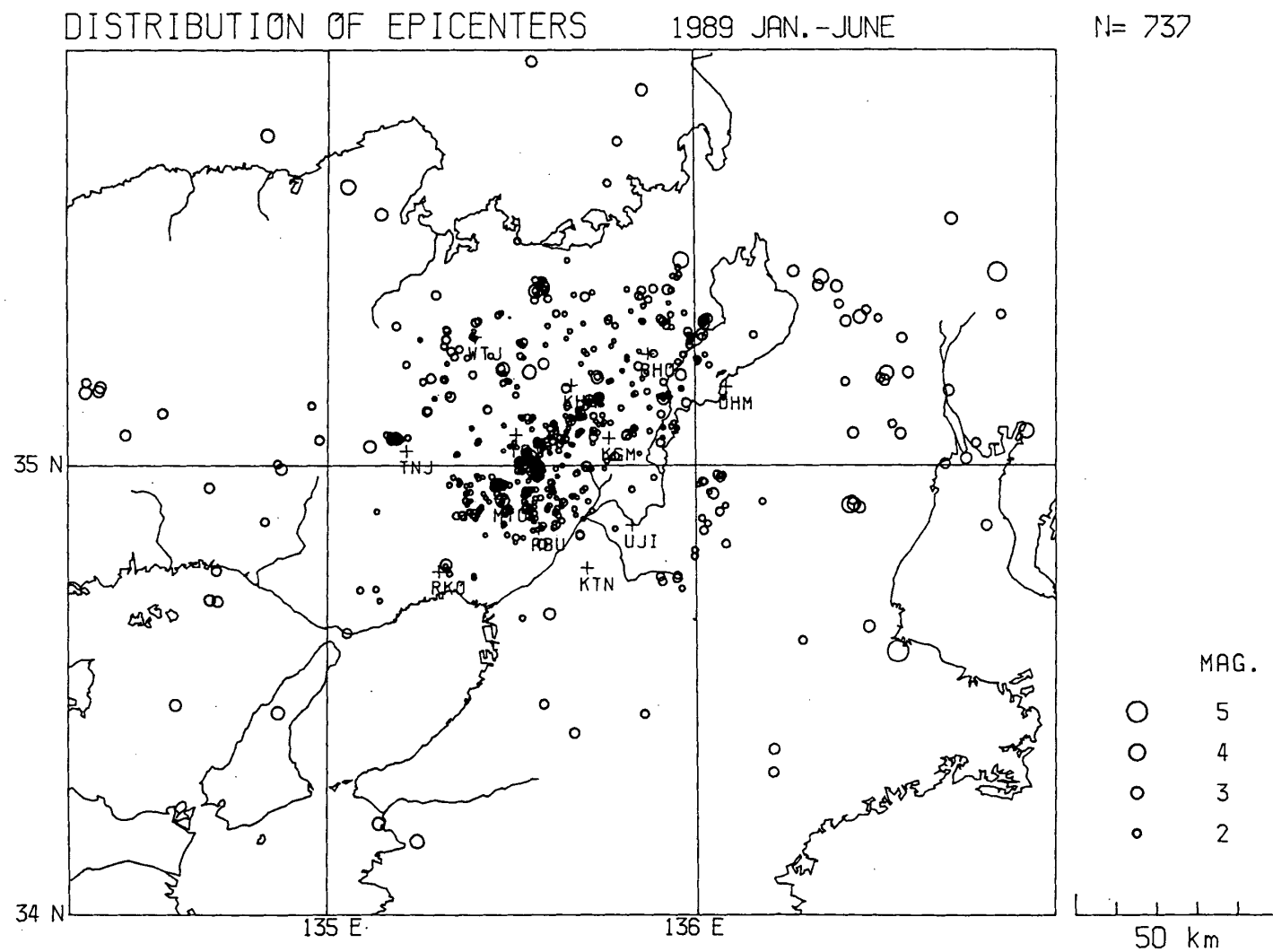
第1図～第3図はそれぞれのネットワークで決められた震央分布図である。また、第4図は、震源決定精度を考慮して3つの震央分布図をつなぎ合わせたものである。図中、Aでしめすものは3月18日のM3.7, Bは1月30日M4.0, CとDはやや深いもので、それぞれ2月19日M5.3, 深さ31.0km及び5月2日M4.7, 深さ22.6kmの地震を示している。

第5図は近畿地方中北部で過去12年間に起きたM1.5以上の地震について、発生数(N), 断層の長さ(L), エネルギー(E)を積算したものである。LとMの関係について種々の議論があるが、ここでは $\log L = 0.5M - 1.8$ を用いて、潜在的断層の長さを算出した。図からみられるように、Nの積算は全期間を通じてほぼ一定の割合であるのに対して、Lの積算は大きい地震の前後で変化を示しており、地震活動の推移を見るのにより適していることがわかる。

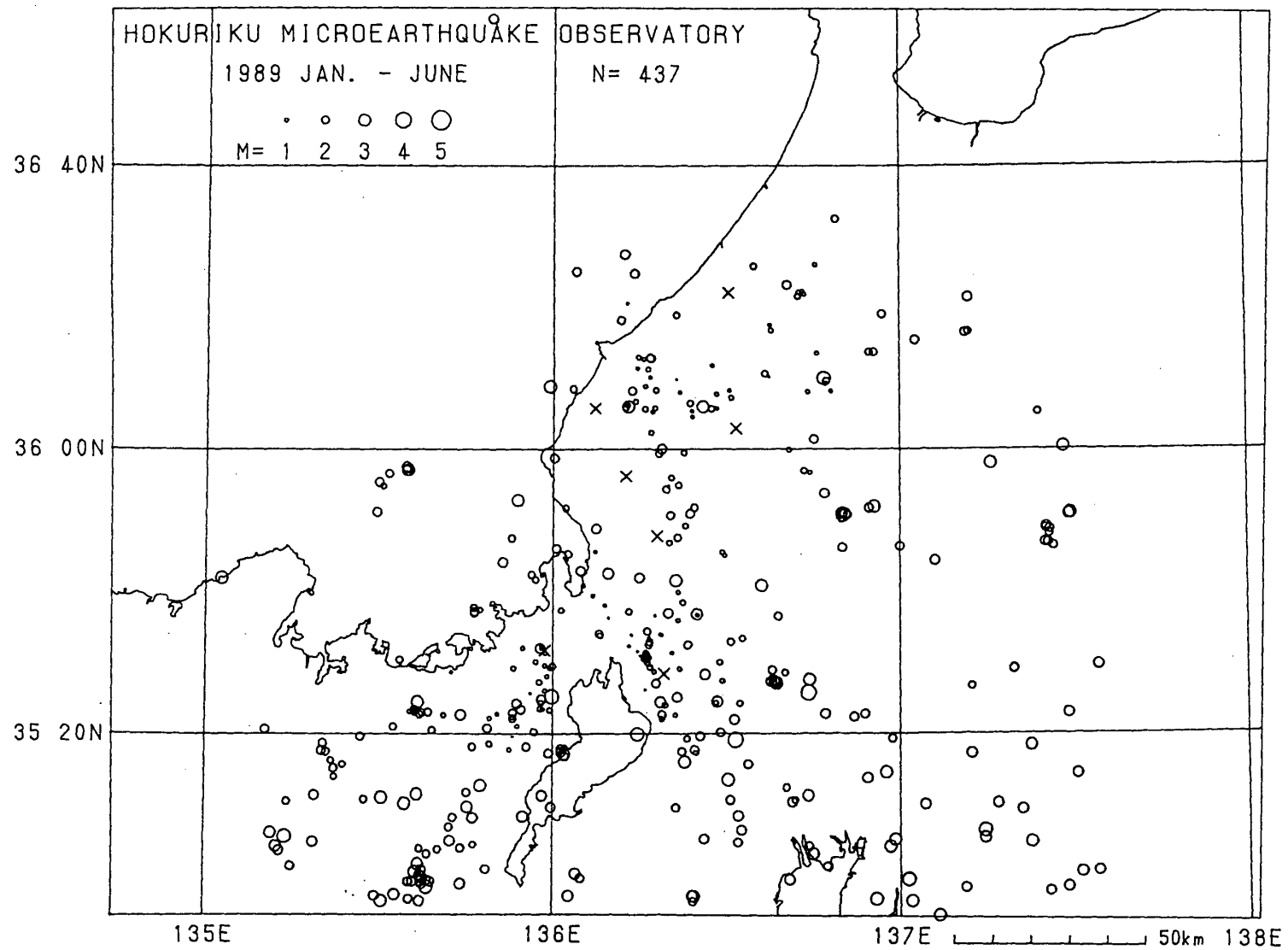


第 1 図 鳥取微小地震観測所による震央分布図 (1989年 1 月 ~ 6 月)

Fig. 1 Seismicity map by the Tottori Microearthquake Observatory (January - June, 1989).



第2図 地震予知観測地域センターによる震央分布図 (1989年1月～6月)
Fig. 2 Seismicity map by the Regional Center for Earthquake Prediction (January – June, 1989).



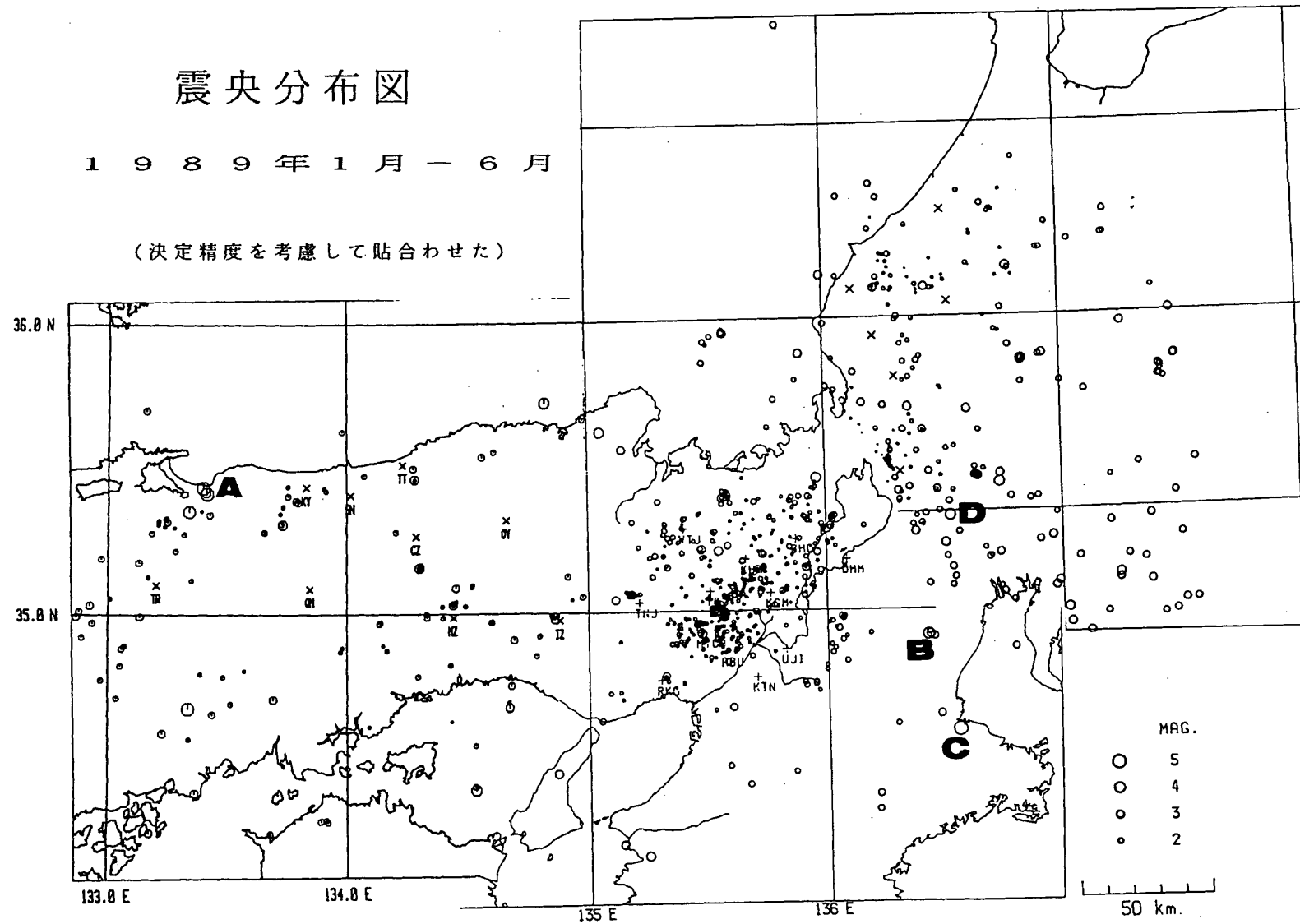
第3図 北陸微小地震観測所による震央分布図（1989年1月～6月）

Fig. 3 Seismicity map by the Hokuriku Microearthquake Observatory (January - June, 1989).

震央分布図

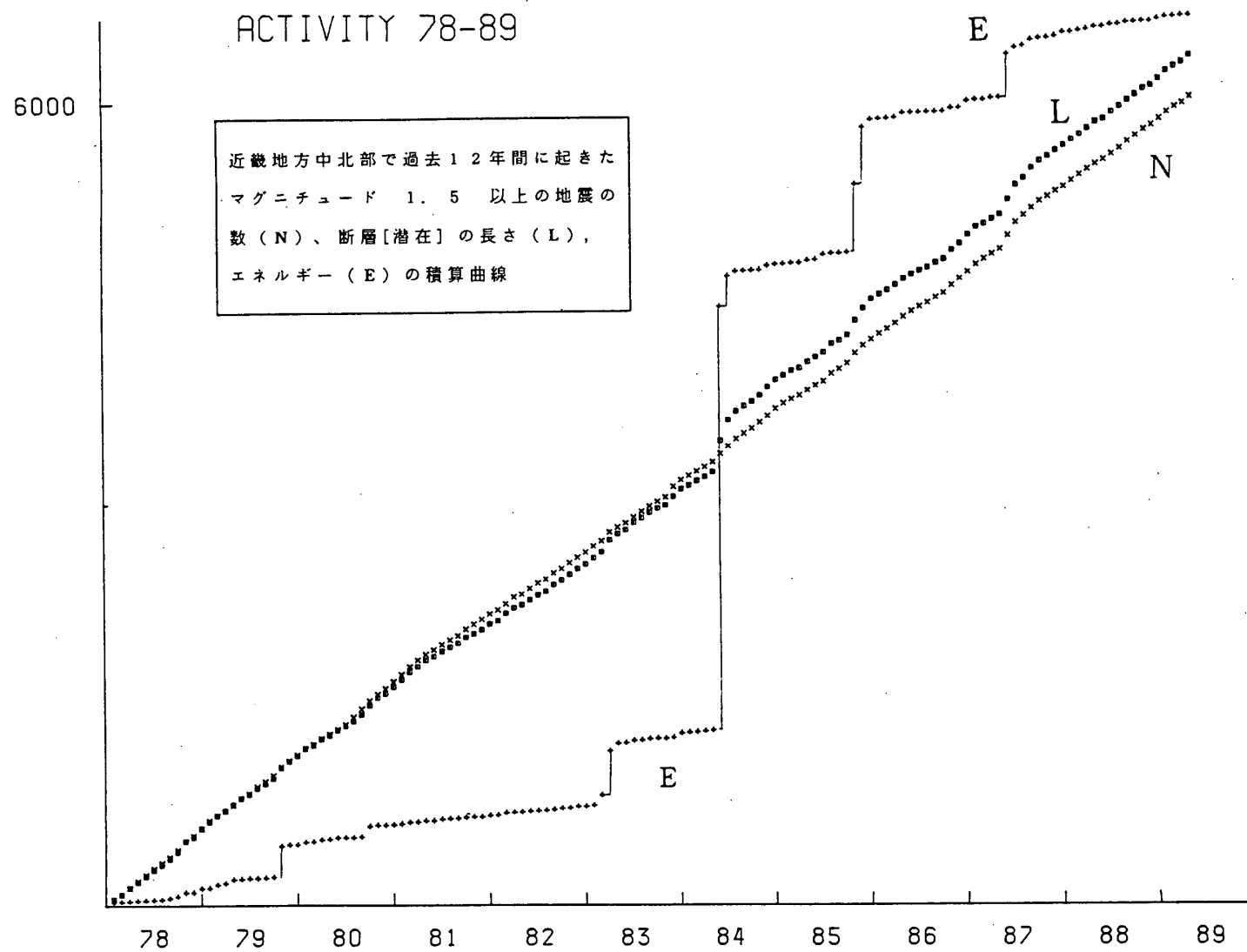
1989年1月－6月

(決定精度を考慮して貼合わせた)



第4図 全域の震央分布図 (図1～3を貼合わせた)

Fig. 4 Seismicity map pasted up from Figs. 1 - 3.



第5図 近畿中北部の地震活動の推移

Fig. 5 Change of seismic activity in the Central and Northern parts of Kinki District.